

指導資料

特別活動 第20号

鹿児島県総合教育センター
令和2年4月発行

対象 中学校 義務教育学校
校種 特別支援学校



学習過程のサイクルを回そう！ — 学級運営委員会で学級は上手くいく！ —

学習指導要領（平成29年告示）の特別活動では、生徒が合意形成を図ったり、意思決定をしたりする学習過程を示している。本資料では、学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」（以下「学級活動(1)」という。）において、生徒が学習過程のサイクルを主体的に回していく学習過程例を紹介する。また、学級活動を生徒一人一人が自分事と捉え、主体的に学級活動に参加し、学習過程のサイクルを回していくための手立てとして学級運営委員会を紹介する。

1 学級担任の悩み

学級担任は、自分の学級の生徒が充実した学級生活を行えるよう、様々な工夫をしていく。しかし、生徒が次のような状態になってしまい、学級担任としてどうすればよいのか悩むこともあるのではないだろうか。



学級で起きている問題を、教師が主導して解決していくこともある。しかし、学級がまとまっていくためには、生徒が主体となって積極的に問題を解決していく必要がある。

では、どのようにすれば生徒主体の解決ができるのだろうか。

2 ぐるぐる回す学習過程

図1は、学級活動(1)において生徒が学習過程のサイクルを主体的に回す例である。

生徒が図1のような学習過程を意識し、主体的にそのサイクルを回し続けようとすることで、生徒の自発的、自治的な活動は充実していくと考えられる。

3 「合意形成を図る」とは

学習指導要領に示された学級活動

の目標には「学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践する」とある。これは、図1にも示した学級活動(1)の活動の内容を示している。学級活動(1)では「合意形成を図る」ことが大変重要になるが、その意味は右の「『合意形成を図る』とは」に示したとおりである。

中学校において「合意形成」を図る活動を行う際、以下の二つの点に留意する必要がある。

- 合意形成に基づき実践するに当たって、自分自身に何ができるか、何を行うべきかということを主体的に考え、意思をもつようにする。
- 課題に対して、一人一人が自分なりの意見や意思をもった上で、合意形成に向けた話し合いに臨むようにする。

この二つの視点は、学級や学校の課題を自分事として捉えるという点で共通している。

4 生徒が学級への所属意識を高め、自分事として取り組むための工夫

担任が問題として捉えている事案を議題として提案し、それについて生徒が話し合っているような学級活動も見られる。このように教師から与えられた学級活動ばかりを積み重ねていくと、生徒が学級における問題を自分事として捉えることは難しくなる。そして、生徒の学級への所属意識は低くなり、学級の一員であるという自覚と責任感も低くなってしまふ。その結果、図1のような学習過程のサイクルを生徒が主体的に回していくことは難しくなると考えられる。

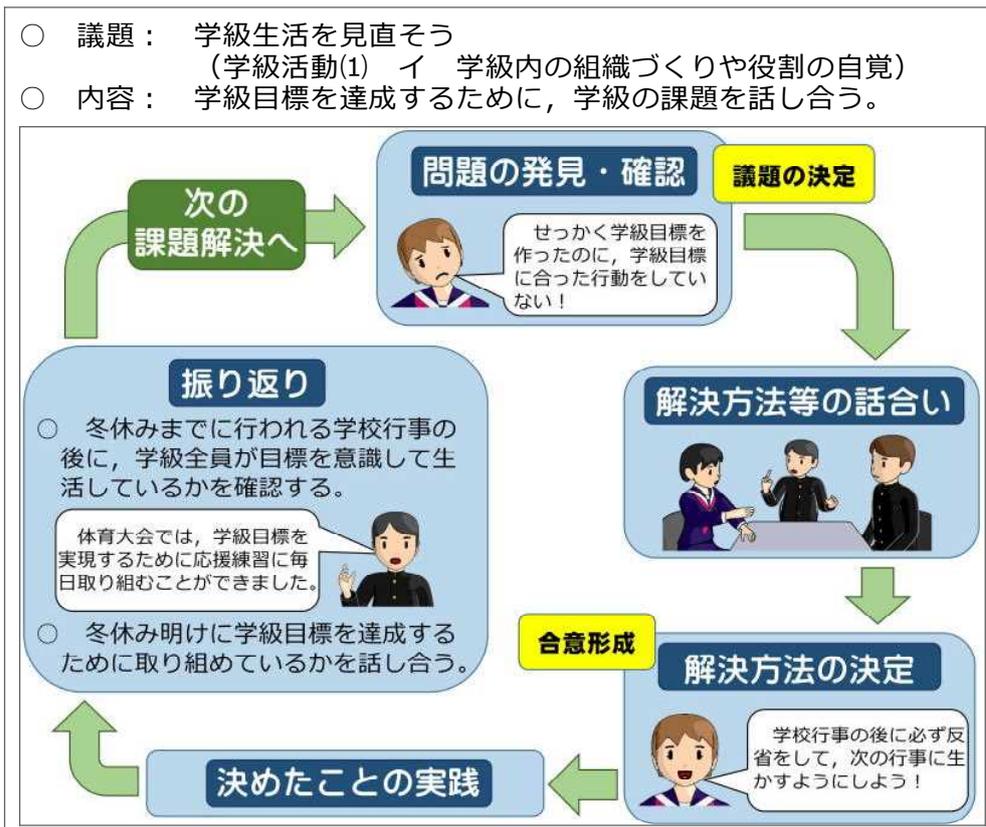


図1 学習過程の例

(『学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』及び『学級・学校文化を創る特別活動【中学校編】』を基に作成)

「合意形成を図る」とは

互いの意見の違いを超えたり、よさを生かしたりしながら最終的に“自分もよくてみんなもいい”というように**集団として意見をまとめる**こと。

みんなで納得して決めよう!

学級活動(1)における学習は、「問題の発見・確認」の過程で学級や学校における生活をよりよくするための諸問題を見付け、その中から「議題」を学級全員で決定することから始まる。

この過程では、生徒全員が納得して、「議題」を自分事として「解決したい」という意思をもつことが大切である。

そこで、生徒が学級活動を自分事として捉えるための、学級運営委員会を中心とした学級運営を紹介する。

5 学級運営委員会とは？

学級運営委員会とは、担任と生徒で話し合い、協力して学級の運営を行うために中心となる組織である。

小学校では、学級活動(1)において中心的な役割を果たす学級会で、学級や学校の生活をよりよくするための課題を学級全員で話し合う。そして、こうした話し合い活動を効果的、効率的に進めていくために、話し合いに必要な一連の活動計画を運営するための計画委員会を組織し、話し合いに向けた準備や司会、記録等を担当し、経験をしてきている。

一方、中学校における学級運営委員会は、学級活動(1)に限らず、学級の運営の中心となる組織である。そのため、小学校での計画委員会の経験を生かしつつ、学級の様子を把握し、学級一人一人の意見を学級の運営に反映できるような様々な活動をしていく。

(1) 学級運営委員会の構成メンバー

学級運営委員会の構成メンバーとして、例えば、下に示すようなものが考えられる。



「その他」のメンバーは、学級生徒会の組織に応じて決定する。

また、下のように学級が活動の単位となる学校行事が行われる時期に合わせて、その行事で中心となるメンバーを構成員に加えることも考えられる。

学級運営委員会に加えるメンバー	
学校行事	加えるメンバー
体育大会	応援団長、副団長など
合唱 コンクール	指揮者、伴奏者、 パートリーダーなど
修学旅行	班長など

(2) 学級運営委員への意識付け

学級運営委員による学級運営を始める際、活動の最初に運営委員の活動の心構えを意識させることは、スムーズな学級運営を行う上で大変重要となる。その際、指導しておくべき内容を紹介する。

○ みんなが「よい学級だ」と思える学級を目指す。

学級運営委員だけでなく、級友、他の学級の生徒や教師、保護者までもが「いいね」と思えるような学級を目指すよう指導する。



○ 「自分たちの手で」よりよい学級をつくり上げる。

教師に指導されてから行動するのではなく、学級にある課題を意識し、学級運営委員会を中心に学級で十分に話し合い、「自分たちの手で」学級をつくる参画意識をもつよう指導する。



○ 「お互いに協力したくなる」雰囲気づくりをする。

・ 一人一人を支える。

① 学級運営委員同士で協力する。

学級運営委員同士が協力し、それぞれの活動を「支持的に」サポートするよう指導する。

② 頑張っている他の係を真っ先に支援する。

学級のために頑張っている他の係がいたら、真っ先に支援するよう指導する。

「学級運営委員がいるから頑張れる」という雰囲気ができることで、学級をよりよくしていこうという意欲も高まる。

級友の立場に立つ。

学級運営に協力しない級友がいた場合、その人の身になって考えるよう指導する。

- (例)・学級運営委員の話が正しく伝わって
おらず、理解できていないのでは
ないか？
- ・気に触る言い方をしているのではないか？



以上の内容を年度当初に指導し、学級運営委員とその他の生徒との関係を良好にすることが、生徒が学級への所属意識を高め、自分事として学級活動(1)に取り組む前提となる。

6 学級運営委員会の活動

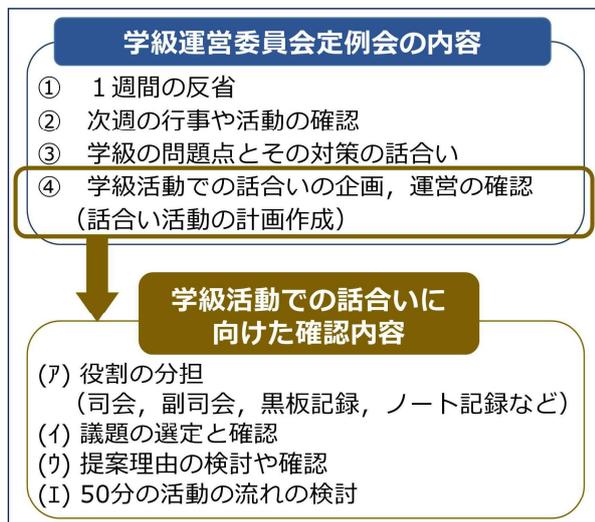
先に示した心構えを指導したあと、学級運営委員会定例会を実施したり、学級活動で話合いの運営をしたりする。ここでは、学級運営委員会定例会について紹介する。

(1) 学級運営委員会定例会の内容

学級運営委員会の定例会は定期的に行う。

下は、1週間毎に行う場合の例である。

④では(ア)～(イ)の内容について確認させる。



なお、学級活動での話合いで議題を提案したい生徒がいる場合は、その生徒を定例会に参加させることも必要になる。

また、学級の実態を把握するためにアンケートを検討し、作成、実施するための話合いも必要になると考えられる。

なお、話合いの活動計画を学級運営委員が

作る場合は、小学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別活動編のP68の「イ 1 単位の時間の指導計画」を参考にされたい。

(2) 実施上の留意点

学級運営委員会定例会を行う場合は、次に示した内容に留意して行う。

学級運営委員会定例会実施上の留意点

- ① 担任の参加を原則とする。
- ② 定例会で決定するのではなく、学級全員での話合いで決定する。
- ③ 話合いの記録は、必ずとるようにする。
- ④ 定例会の実施場所、時間は固定した方がよい。

上に示すとおり、定例会には原則として担任が参加する。これは、学級の状態を担任が把握するためだけではなく、場合によっては話合いをスムーズに行うための助言を行うためでもある。

なお、担任が学級の問題として捉えている事案がある場合、その問題に学級運営委員が気付くように担任が発言していくことが、学級運営委員の主体的な活動にとって重要であると考えられる。

学級運営委員会以外の生徒は学級運営委員会を支えたり、時には委員会の意見や考えを修正したりすることもある。しかし、お互いを信頼して活動していくことで、生徒一人一人が学級への所属感を高め、学級活動を自分事として考えるようになる。このことが、主体的に学級活動へ参加し、図1に示した学級活動(1)の学習過程を回していくことにつながると考える。

—引用・参考文献—

- 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』平成29年、東山書房
- 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』平成29年、東洋館出版社
- 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター『特別活動指導資料 学級・学校文化を創る特別活動【中学校編】』平成28年、東京書籍
- 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター『特別活動指導資料 みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動【小学校編】』平成31年、文溪堂
- 鹿児島県中学校特別活動研究協議会『学級担任これさえあれば!! 特別活動』平成25年

(教科教育研修課 内 祥一郎)